第2回アジア作物学会議に出席して

山岸 徹
（東京大学農学生命科学系）

アジア作物学会（The Asian Crop Science Association）主催の第2回アジア作物学会議（The 2nd Asian Crop Science Conference, The 2nd ACSC）が、1995年8月21～23日に福井県立大学を会場として開催された。第1回は1992年に韓国で開催され、その折開かれたアジア作物学会議国際委員会において、日本での開催が決定された。それに受け、日本作物学会のもとに第2回アジア作物学会議組織委員会が組織され、準備を進めてきた。会場となった福井県立大学は、1993年創立の施設も近代的な、国際会議にふさわしい大学である。また、福井市内から会場への車窓からは、登録客の水田風景が広がり、作物学会議の雰囲気を醸し出していた。

会議の日程は8月20日の参加登録・国際委員会に始まり、21日会議式、全体講演およびミキサーが行われ、22、23日にはシンポジウム、ポスター展示と小集会が、また23日にはパーティが開かれた。24、25日にはエクスカーションが行われ、また本会議と関連して、20日には福井県主催のコメに関するシンポジウムが、24日には福井県立大学主催の第2回国際FPUバイオサイエンスシンポジウムが開催された。会議初日には広々とした県立大学の芝生の庭園に開かれたミキサーが行われ、作物学会の懇親会とは異なる雰囲気であり、昂揚した気分をおぼえた。

「急増する人口と悪化する地球環境のもとでの食糧生産確保を目指して」をモットーに挙げた講演では、まずNorman Borlaug氏（Texas A & M Univ.）、George Rothschild氏（IRRI）、三輪夏太郎氏（農林水産技術会）による全体講演、それに引き続き、タイ、フィリピン、インドネシア、メラネシア、ベトナムの作物学会代表による地域報告が行われ、シンポジウムは、次のような8つのタイトルに分かれて行われた。
1. 地球環境変化と作物産業、2. 米の品質、3. 低投資・持続型農業及び作付体系、4. 多収の基礎と